

申し送りシートを用いた葬儀社との連携の必要性 ～遺族ケアに繋げるために～

緩和ケア病棟 ○川上結衣 星野美恵 西田美保 溝上千代美

【目的】緩和ケア病棟では、ご遺体の容姿、様相を保つことは患者の尊厳の保持と遺族ケアに繋がることから、エンゼルケアを重視している。2018年には、葬儀社アンケート調査を行い8割がこれまでに遺体トラブルを経験し、その対応に追われていることが分かった。そこで、ケアを引き継ぐ葬儀担当者が、トラブルリスクを把握し予防的なケアやご遺体トラブルに迅速に対応できることを目的に、2019年10月から情報共有ができる申し送りシート(以下シート)を作成し活用している。今回再度、葬儀社へアンケート調査を行い、これまで活用(2022年9月まで450件実施)した結果と今後の課題について明らかにする。

【方法】対象者は葬儀社6社の葬儀社職員計34名で、期間は令和4年10月15日～11月15日にアンケート用紙を郵送し葬儀社毎に回収した。質問紙は無記名で、内容は多肢選択および自由記載で行い、多肢項目は単純集計し、自由記述については質的に分析した。

【結果】アンケート回収率は100%であった。結果は、従来の口頭よりシートの方がわかりやすいが94%、葬儀担当者間での情報伝達ツールとして活用できた・必要時活用できたが100%、遺体トラブルを考える際に活用できたが97%、遺体トラブル予防への対応に役立つが100%、ご家族からの遺体に関する質問や問い合わせに役立つが88%であった。今後もシートを継続希望するが100%であったが、シートの不便さや改善を希望するが15%で、感染症記載の充実、専門用語がわかりにくい等の内容であった。また腹水除去や家族への遺体トラブルリスクの事前説明の要望もあった。その他腐敗予防の冷却や体液漏れが予測される部位へ予防処置の検討、納棺師や火葬場の申し送りにも活用できたという意見だった。

【考察】従来の口頭による説明からシートを活用し可視化したことで確実な情報伝達や共有に繋がったと考えられる。また家族の問い合わせの際にもスムーズな対応ができるようになったことは、家族の不安軽減となり遺族ケアにも繋がったと考える。渡辺ら<sup>1)</sup>は「ケアを行う上では、医療者が遺体に関する知識をもち、患者から遺体に変化することを意識し、退院後に起こりうるトラブルに対応できる家族指導、そして葬儀社職員との連携が重要になる」と述べている。当院で実施した先行研究<sup>2)</sup>からも遺体トラブルとなる鼻腔、口腔、点滴抜去部からの出血、体液漏れなどに対する適切な対応や、ケアを引き継ぐ葬儀担当者との情報共有が重要であることが明らかとなっていた。自由記載では「遺体トラブルの発生を予測しそれぞれにあった処置を行うことで、トラブルを未然に防ぐことができた」という回答も得られた。遺族が願うのはお別れの姿が最期まで穏やかで安らかなままであることで、病棟スタッフも葬儀社も、生前の外観を出来るだけ保ち死によって起こる変化を最小限とし、ご家族の想いに寄り添えるよう努めている。

今回、申し送りシートを活用したことで、トラブルリスクに対応できるツールとなった。今後はシート改善やケア方法の検討を重ね、葬儀社と円滑な連携推進を図っていきたい。

【引用参考文献】1)渡辺礼子：緩和ケア病棟における遺体トラブル発生予防に向けたエンゼルケアの評価,死の臨床,38(1),196-200. 2)時川利菜他：その人らしい最期を支えるエンゼルケアを考える,朝倉医師会病院院内研究,2018.